

高校野球改革 甲子園開始から1世紀たった今、求められる変革
～補欠ゼロを目指して～

一橋大学 岡本ゼミ B

○荒川 頌平

玉谷 健人

趙 顕真

槌尾 啓

1. 緒言

2013年春のセンバツにおける、愛媛県代表済美高校の2年生エース・安楽智大投手の活躍は、高校野球ファンにとって記憶に新しいだろう。しかし、この活躍の裏側には5試合772球という常軌を逸した連投があり、このことを受けて多くのメディアで議論が起こり、結果として夏の甲子園では「休養日」が導入されるという大きな変化を生み出した。

2年後に第一回大会開催から100周年、5年後に夏の甲子園が第100回大会と、1世紀という長い歴史を経て、高校野球は一つの大きな区切りを迎える。先般巻き起こった議論も含めて、区切りを迎える今だからこそ高校野球全体として求められる「変革」があるのではないかと、いち高校野球ファンとして思い、今回ひとつの政策を提言するに至った。

2. 高校野球の現状

2.1 理想と現実

日本学生野球憲章前文に記されている通り、「学生野球＝教育」であり、教育である以上勝利至上主義に陥ることは好ましくない。しかし、現実にはエースピッチャーの酷使連投や補欠問題による試合機会の偏りなど、勝利至上主義が浮き彫りになっている。

また、日本という国家のスポーツ方針として、スポーツ基本法・スポーツ立国戦略などが掲げられ、スポーツ団体との協働・民間資金の投入・先進的な取組の推進が理想としてうたわれてはいるものの、高校野球に関しては、伝統を重んじるあまり変革に乏しく、制度の疲労がうかがえる。

2.2 補欠問題

(1) 問題の選択動機

先に述べたように、高校野球界が孕む問題はいくつかあるが、我々はその中でも「補欠問題」を今回解決したい問題として選択した。なぜならば下記の図1を見ればわかるとおり、高校野球におけるベンチ外の選手たちはサッカー以外のどの競技の男子総部員数よりも多く、その数は90000人にも上るからである。仮にこの補欠問題を解決できたならば、受益者は数多く、スポーツ界ひいては社会に大きなインパクトを与えるであろう。

また、補欠選手たちに試合機会をつくる際、一軍や公式戦、甲子園大会のシステム・伝統に大きく手を加えることなく実現可能であることも、選択理由の一つである。

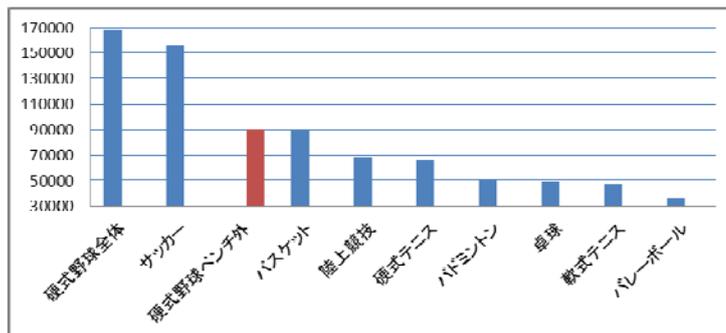


図1 全国高校部活動男子部員数と高校硬式野球ベンチ外部員数

(2) 補欠選手の実情

レギュラーの選手たち、ベンチ入りの選手たちが実践練習や試合に出ている一方で、ベンチに入れない選手たちは何をしているのだろうか。場合にもよるが、守備練習や走り込み、応援にレギュラー陣のサポートだけで3年間を終えてしまう選手もいるのが現実だ。もちろん面白くない練習を繰り返すこと、ほかの選手のサポートをすることも、一つのチームとして戦っていくうえで大切なのは言うまでもないが、仮に機会があるならば試合に出たいと思うのが、選手の自然な気持ちではないだろうか。

(3) 監督の苦悩 (都立高校野球部監督 40代後半)

都立高校野球部の現役監督にインタビューさせていただいたところ、“教師”として生徒全員を試合に出してやりたい気持ちと、“監督”として勝利を優先させる気持ちとの葛藤は常にあるようだ。それゆえ、試合よりも練習を重要視しており、「他人と比べてではなく自分がどれだけ成長したか」を生徒に意識させるよう心掛けている。しかし、負担の少ない方法で試合が増えるならば、もっといろいろな選手を試合に出してみたいと仰っていた。

(4) 高野連理事へのインタビュー (強豪私立高校野球部副部長 40代前半)

向こう数年は現状のシステムが変わることはないだろうが、2013年夏の甲子園にて休養日が設けられたように、「野球先進国」日本として、高校野球界でも今後新しい取り組みで現在抱えている課題を解決していく意欲はあるようだ。

3. 補欠問題解消へ、実際の取り組み

3.1 DUO リーグ

東京都文京区・豊島区・足立区・中央区の高校運動部とクラブユースによるユース(U-18)サッカーリーグ。4～7月に前期、9～12月に後期リーグを行い、レベルやニーズに応じて、「歯磨き感覚」「引退なし」「補欠ゼロ」でサッカーが楽しめる環境づくりを目指している。

3.2 高円宮杯 U-18 サッカーリーグ

日本サッカーの将来を担うユース（18歳以下）の少年たちの充実した試合環境の創造、リーグ文化の醸成、サッカー技術の向上、健全な心身の育成を図ることを目的とし、第2種加盟チームの全てが参加出来る最高峰の大会。

4. 政策提案—試合に出れない、試合ができない選手たちのためのリーグ in 千葉

4.1 なぜリーグ制か、なぜ千葉県か

ノックダウン方式のトーナメントに比べ、リーグの方が試合機会は増える。すると競技レベルが向上し才能発掘の機会も増え、かつ、野球という競技をプレイすること・勝ち負けを決する経験による教育的意義に触れる機会が増える。また、複数ディヴィジョンを設けることでモチベーションを維持し、選手のレベルにあった環境を提供することができる。

次に、なぜ千葉県を選択したか。まず我々は関東在住であるため、対象を関東（東京、神奈川、埼玉、千葉、群馬、栃木、茨城）に絞った。そして、関東7県の面積、高校硬式野球部平均部員数の表1、2を、図2のように平面にマッピングすると、「面積（＝移動距離）が大きく」「平均部員数が多い」右上の象限に入るのが千葉県だからである。

表1		表2	
	平均部員数(人)		面積(km ²)
埼玉	45.2	栃木	6408.28
千葉	45.1	群馬	6363.16
神奈川	42.1	茨城	6095.69
群馬	40.4	千葉	5156.58
東京	39.8	埼玉	3797.25
栃木	37.9	神奈川	2415.84
茨城	36.7	東京	2187.42

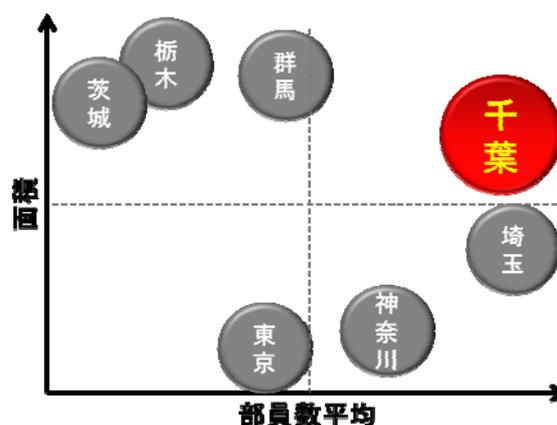


図2 関東7県の面積、平均部員数

4.2 リーグの具体的なシステム

(1) ブロック分け

千葉県高野連発表の部員統計から、ベンチ外部員数が各地区540人前後になるよう8地区を以下のように分割した。

そして各地区20人（目安）×9チームのリーグを3ディヴィジョン構成する。

第一地区（千葉市花見川区・美浜区、船橋市）…24校 534人

第二地区（千葉市稲毛区・中央区、市原市）…21校 501人

第三地区（市川市、浦安市、習志野市）…18校 553人

第四地区（柏市、白井市、印西市、酒々井町）…17校 513人

第五地区（千葉市若葉区・緑区、八千代市、佐倉市、四街道市、八街市）…20校 546人

第六地区（我孫子市、野田市、流山市、松戸市、鎌ヶ谷市）…22校 547人

第七地区（袖ヶ浦市、木更津市、一宮町、富津市、君津市、大多喜市、いすみ市、館山市

南房総市、鴨川市、勝浦市) …19校 540人

第八地区 (成田市、香取市、多古町、旭市、銚子市、富里市、匝瑳市、横芝光町、山武市、東金市、九十九里町、大網白里町、茂原市) …27校 512人

(2) 試合日程

3月から11月の9か月、毎月1試合を行い、総当たり戦を行う。12月にはD1&2、D2&3の入れ替え戦、8地区のD1優勝チームによる決勝トーナメントを行う。

(3) 各種レギュレーション

- ・ 合同チームでの参加容認→人数不足で試合ができないチームも参加可能
- ・ 投手の球数制限、DH制導入→選手の健康保護、出場機会のシェアリング
- ・ 7回制、2時間ルール→試合の迅速化
- ・ 各チームがシーズン9か月の間に2回学校のグラウンドを提供する
- ・ 1会場で2試合 (第一試合9時~11時、第二試合12時半~14時半)
- ・ 1チームあたり参加料と審判講習料計60000円を回収 (20人チームで3000円/1人)

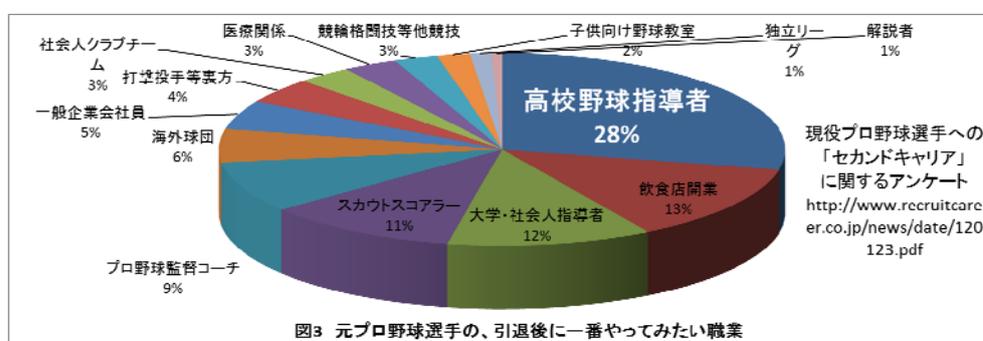
(4) 人的資源

【審判】・各チーム二人用意する (リーグ主催で審判講習会開講)

- ・ 審判は学生でもよい→若手審判員不足問題の解消につながる?

【監督代理、引率者】・指導者資格回復条項の緩和により講習を受けた元プロを斡旋 (下の図3のように、高校野球指導者を希望する元プロは多い)

- ・ 野球指導者経験者を謝礼付きで一般からも募集



【運営者】・DUOリーグの運営システムを参考に、受益者負担で学生も運営に関わる

5. おわりに

今回は千葉県高野連に加盟しているすべての高校が参加する場合を想定して計算を行った。規模が小さくなる分には実現可能性は上がっていくだろう。我々としては、まずは千葉県で実現できるというモデルケースを示し、ほかの県へと波及して行ってほしいと願う。しかし、どんなに皮算用で実現できるとしても、実際には高野連、学校、先生、ご家庭の

ご協力、そして何より選手本人のやる気なしには成り立たないのは言うまでもないだろう。

<資料・文献>

- ・一般財団法人 千葉県高等学校野球連盟 (<http://www.chbf.or.jp/>)
- ・DUO リーグ (<http://www.duoleague.com/>)
- ・公益財団法人 日本サッカー協会 (<http://www.jfa.or.jp/>)